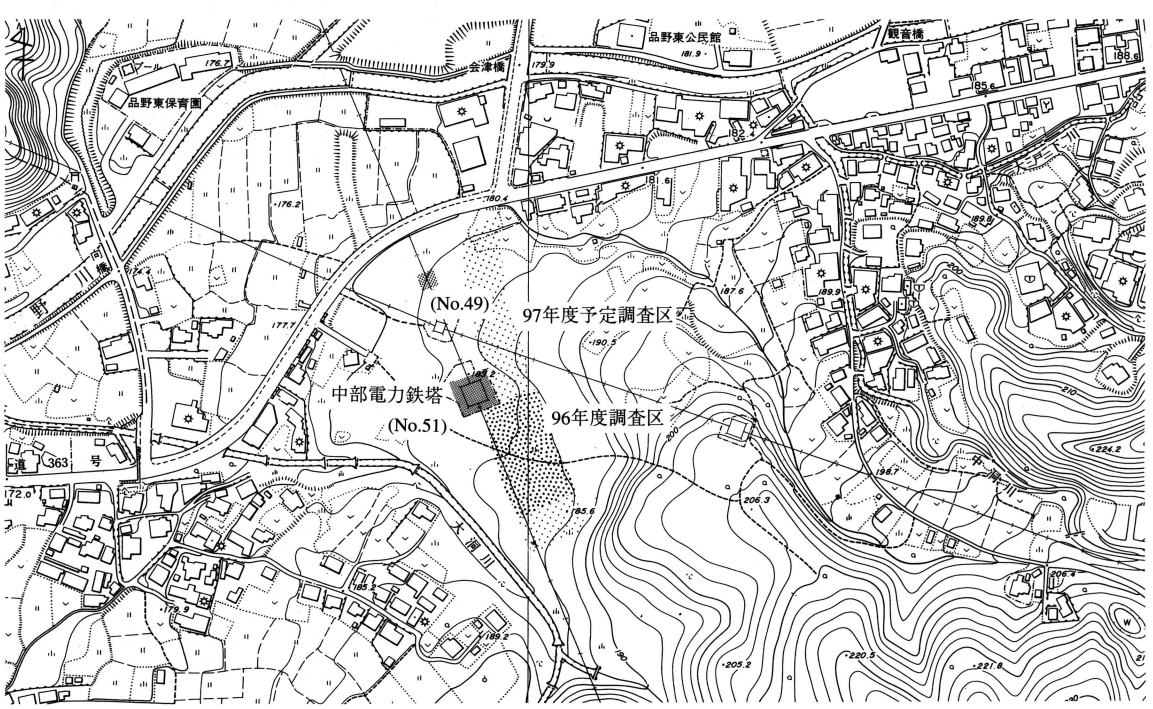
上品野（かみしなの）遺跡

調査の経緯　上品野遺跡は、瀬戸市上品野町に所在する。遺跡は品野盆地北東に位置し、瀬戸市東部丘陵から流れる大洞川の形成する扇状地と、丘陵から続く標高180メートル程の周辺の台地部に立地している。周辺には、縄文後期の中洞遺跡、弥生時代の大洞遺跡、縄文時代から中世にかけての上品野蟹川遺跡、１３世紀に施釉陶器を焼成した中洞窯・宇トゲ窯、１５世紀に施釉陶器を焼成した桑下窯、戦国時代の桑下城跡、１９世紀から磁器を焼成した清五郎窯等各時代の遺跡が存在している。また、本調査区の西隣にある中部電力鉄塔建設に当たり、1988年に瀬戸市埋蔵文化財センターにより発掘調査が行われている。

本調査は、東海環状自動車道建設に伴う緊急発掘調査で、建設省から愛知県教育委員会を通じた委託事業である。本年度の調査は、自動車道予定地にかかる遺跡の内、谷状の扇状地部分3000㎡を、平成８年12月より平成９年３月にかけて実施した。

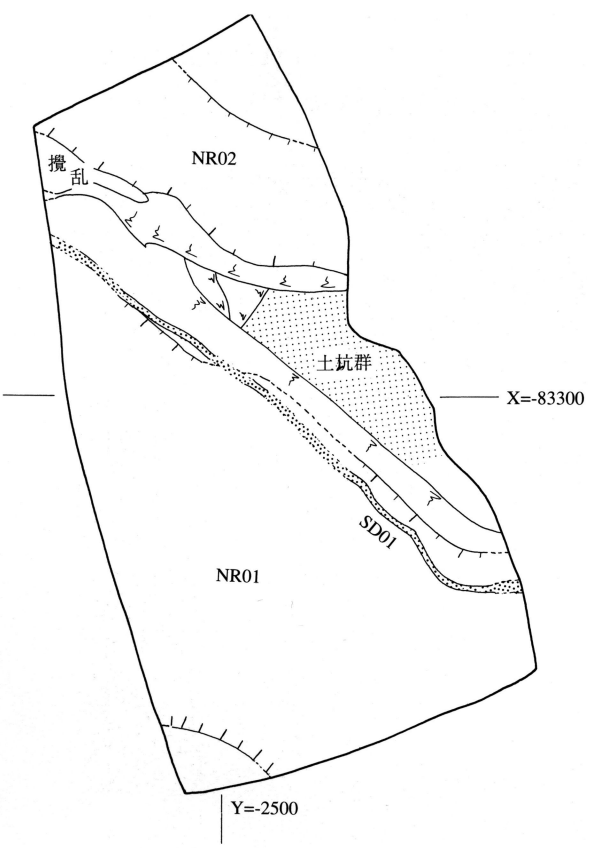
調査の概要　調査の結果、二つの谷地形　（ＮＲ01、02）とそれに挟まれる平坦部を検出した。遺構は、谷に挟まれた平坦部で　で集中的に検出された土坑群と、この平坦部に続く斜面に、谷にほぼ並行して開削された溝（ＳＤ01）である。

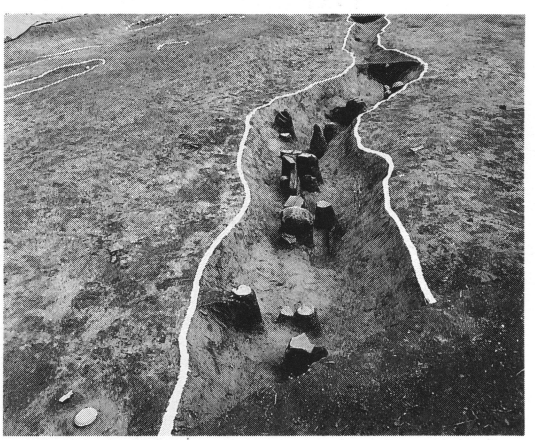
平坦部の土坑群は、数棟の掘立柱柱穴となる可能性がある。また、ＳＤ01は平坦面より下位にあり、地形の制約を受けながらも、土坑群分布域の外縁部を区切る。下位の埋土からは、12世紀から13世紀にかけての灰釉系陶器（椀、小皿、羽釜）、土師器（鍋）などが出土している。またこの遺構群は、調査区東側に若干伸びる可能性がある。 谷は、上部は緩斜面であるものの、途中より急斜面となって深く落ち込んでいる。ＮＲ01は検出面で最大幅約30ｍ、深さは最深部で４ｍ以上を測る。ＮＲ02は検出面で最大幅約15ｍ、深さは最深



部で５ｍ以上を測る。谷の中からは、弥生土器、土師器、灰釉陶器、灰釉系陶器、施釉陶器、近世陶器等の土器類の他、黒耀石、チャート、下呂石、石英の剥片、黒耀石、チャート製の石鏃、下駄などが出土した。これらの遺物は先の瀬戸市の調査の成果を補足するものである。 また、埋土中に、厚さ数ｃｍの松河戸火山灰堆積層が確認できた。

今回の調査では、12～13世紀以外の遺構は確認できなかったが、今後の調査で当該期の遺構が検出される可能性もある。　（福岡晃彦 ・池本正明 ・後藤英史）




ＳＤ０１遺物出土状況

ＮＲ０１遺物出土状況